

件名 **第3回防災講演会** 3月05日(火)18:00-20:00 愛宕供用会館

### 第3回防災講演会

— 人と人とのつながりが、災害から命を守る —  
「まち歩きとアンケート結果から見えてきたもの」

講師 幸坂 美彦 氏

(一社)いのちを守る防災危機管理協会理事



主催:愛宕地区自主防災組織連合会  
(愛宕地区自治会連合会)

共催:いわくに市民活動支援センター

愛宕地区自治体連合会では、本年度から愛宕地区社会福祉協議会と連携し「愛宕地区自主防災まちづくり」に着手し半年が経過しました。活動内容は次のような3点を実行してまいりました。

- ①住民の防災意識向上を図るための「防災講演会」を開催
- ②「まち歩き」による現状調査と「ハザードマップ」の作成
- ③地区住民の防災意識を把握するための「防災アンケート調査」

このたび、防災講演会として3回目を実施、「まち歩きとアンケート結果から見えてきたもの」を主題に講演会を実施しましたので、その概要をお知らせします。

#### < 概要 >

アンケートは449枚、返信はがきを同封し、291枚の回収(64.8%)、回収内容を解析し見えてきたものを詳しく紹介いただき、愛宕地区の課題についても指摘をしていただきました。

- ① 多くの人は災害が無いという意識が根底にあるから防災に対して関心も薄い。  
災害は他人毎であり、何も根拠のないのに自分には災害が来ないだろ、何か起きても決めるのは自分だという考えで自己中心的である。そして、守ってくれるのは行政がやってくれるだろうという行政依存、災害時には隣近所が助け合うことが大事であるにも関わらず常日頃からのコミュニケーション不足、協調性も足りない。
- ② 事業所についても地元地区との共存、連携をもっとすることがある。  
防災対策としてやるべき内容の70%が自助(自分の命は自分で守る)であるということを多くの住民の1人1人が理解をしていくことが極めて重要である。防災の主役は自分であり、公的機関の支援や地域の支援はあくまでも補助でしかないことの認識をもっと知らせていく必要がある。
- ③ 今までの活動から今後何をしていけばよいかについては多くの課題(やっていくべき具体的な行動)は多いが、このことは「みんなで知恵を出し合っているいのちを守る」ということを念頭に来年度の愛宕地区防災活動内容を組み立ててもらいたいと宿題を頂きました。

講師からはアンケートからの課題8項目、これからの活動の指針7項目を具体的に指摘頂いています。

これらの内容をじっくり眺めて検討をし、来年度の「防災まちづくり計画」の策定に着手することになります。

国は東日本大震災の後、2014年6月に「国土強靱化」策定、国内の防災体制を強化してきたが、各地区の自治体、そして個人のレベルでまだまだ防災上の不備が多いことが明らかになっています。「天災は忘れたころにやってくる」と云われたのは昔のことであり、ここ数年、自然災害や異常気象は「天災は忘れる間もなくやってくる」を実感しています。

「完全な防災」は無理でも少しでも犠牲者や被災者を減ずる「減災」の観点が大事です。

住民の皆さまには、今後共、災害から命を守る為の意識を高めて頂きまして「防災まちづくり」に積極的にご参加とご協力をお願いします。

3回に亘って防災講演会にて御講演いただきました幸坂 美彦先生に厚く御礼申し上げます。

発行日 2019.03.06

# 第351号 画像NEWS愛宕地区社協 発行元 広報部

## 件名 第3回防災講演会

3月05日(火)18:00-20:00 愛宕供用会館

